

## 「論理国語」における

### 言語活動を取り入れた授業提案

—「『である』ことと『する』こと」(丸山真男)の場合—

三 根 直 美

高等学校学習指導要領(平成三十年告示)で新しく設置される選択科目「論理国語」では、「書くこと」に三割から四割強配当するよう明示されている。「『である』ことと『する』こと」(丸山真男)を使って、どのような「読むこと」「書くこと」の指導過程をとることで、効率よく「書く」力は高まっていくのかを考察した。「『である』論理と『する』論理」で現代社会を分析する文章を書かせた結果、以下の四つが提案できた。

- ① 自分の問題として受け止められるような書くテーマを設定する。
- ② 構成メモを使って、思考の枠組みを作成した後、生徒同士の相互批評を行う過程を踏んで、文章を書く。
- ③ 「接続詞」の働きを取り上げたレッスンを組み入れる。
- ④ 評価の観点を簡略化し、文章を評価してすぐ返却し、かつ文章を多く書く機会を設ける。

## 一 はじめに

高等学校学習指導要領(平成三十年告示)では、高校二、三年生で選択履修することが想定される「論理国語」において、「書くこと」に関する指導は50〜60単位時間程度配当することとされている。また「読むこと」に関する指導は80〜90単位時間程度配当することとされている。「書くこと」の指導が三割から四割強占める必要があるのだが、実際に生徒に書かせる時間、評価する時間を考えると、なかなかここまで時間を取る実践は難しいのが現実ではないだろうか。「書くこと」は、「読むこと」がベースにあって初めて成り立つものである。そのことを踏まえると、どのような「読むこと」「書くこと」の指導過程をとることで、効率よく「書く」力は高まっていくのか、また効率のよい評価方法はあるのか、定番の評論文を使って探っていききたい。

## 二 授業の実際

実施期間 二〇二〇年十一月〜十二月【全九時間】  
対象クラス 広島大学附属高等学校Ⅱ年一組 四十名  
教 材 『『である』ことと『する』こと』(丸山真男)

教材の意義 (『高等学校現代文B 改訂版』三省堂、二〇一七年検定済)

定番の評論文であるが、読解自体は容易ではない。現代に生きる生徒には難解と思われる語句や内容が多く出てくる。一九五八年の講演内容を基に要約加筆、改稿を経てのもので、半世紀も前の文章であるとはいえず、「する」論理が重視される現代の日本においても、「『である』論理が社会の中で未だに混乱を引き起こしていることを考えれば、この二つの論理で社会を分析する思考方法は、生徒にとって相当に意味があるものだと考えられる。特に自らの生きる現代社会をこの論理で客観的に見つめる視点を養うことこそが、この教材の主眼と言っているのではないだろうか。

このことは、「論理国語」の2目標(3)の解説にある「現代社会に関わる話題や問題に幅広く関心をもち、生涯にわたる読書習慣の基礎を築き、社会人として、考えやものの見方を豊かにすることを目指していく。」に合致している。

内田樹が、

「論理的に思考する」というのは、僕の理解では、断片的な情報を総合して、一つの仮説を立て、それを検証し、反証事例に出会ったら、それを説明できるより包括的な仮説に書き換える…という開放的なプロセスのことだと僕は思います。

と述べているように、丸山真男の「論理的に思考する」道筋をたどり、自分たちもその論理によって、現代社会を見つめる知性を付けていくのである。

以下のような小見出しが付けられているものに、授業者が□□の段落番号を付けた。

- 「権利の上に眠る者」
- 近代社会における制度の考え方
- 徳川時代を例にとると
- 「である」社会と「である」道徳
- 業績本位という意味
- 日本の急激な「近代化」
- 「する」価値と「である」価値との倒錯
- 学問や芸術における価値の意味
- 価値倒錯を再転倒するために

学習目標

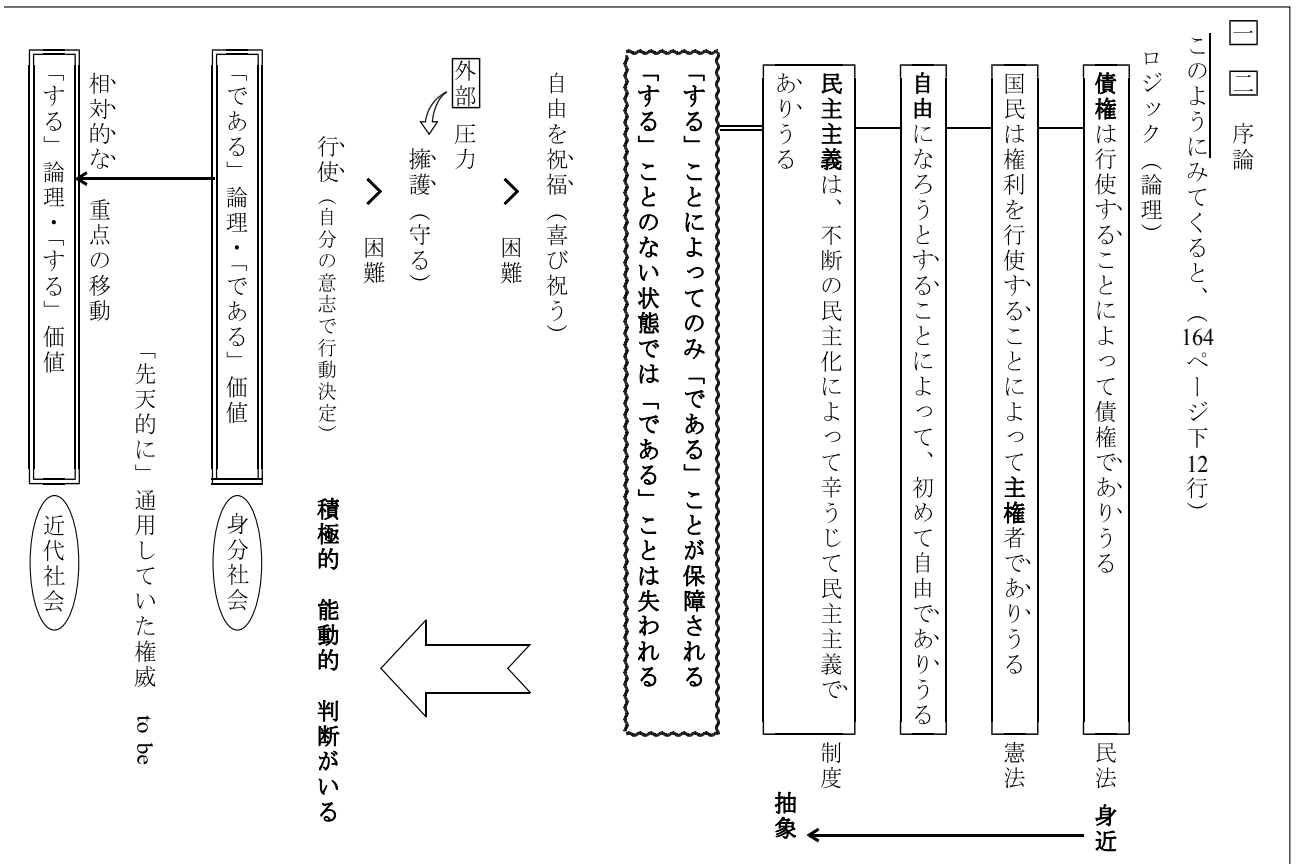
- 1 本文に用いられている概念や論理を的確に理解する。
- 2 「である」論理と「する」論理を使って、現代社会にある問題点を見つめる知性を身につける。
- 3 二つの論理を使って自分の考えを書くことによって、ものの見方や考え方を身につける。

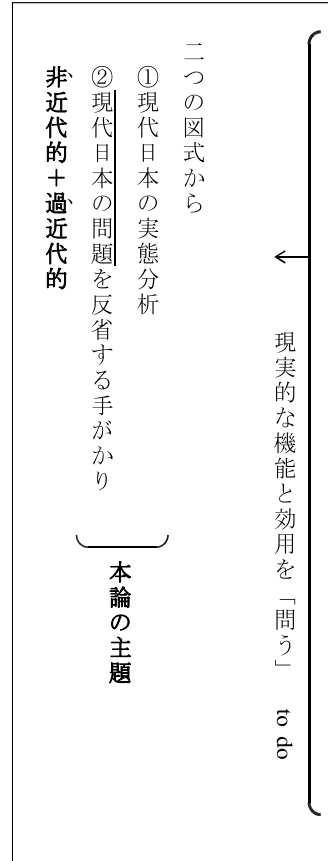
授業の流れ

読解に六時間、書くことに三時間費やした。読解は、発問とワークシートにより進めた。授業の概要は板書で示した通りである。(太字部分が色チョーク)

第一・二時 読むこと

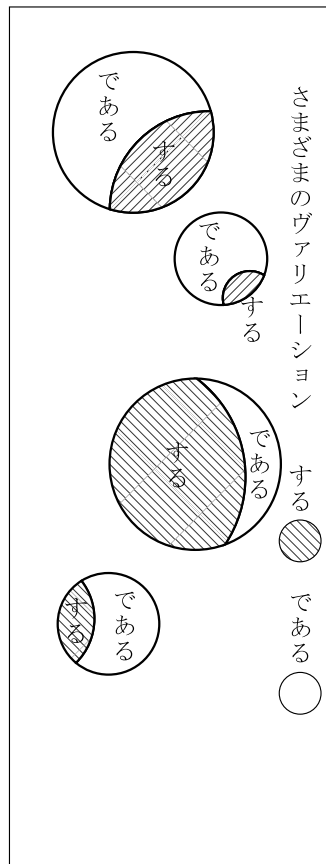
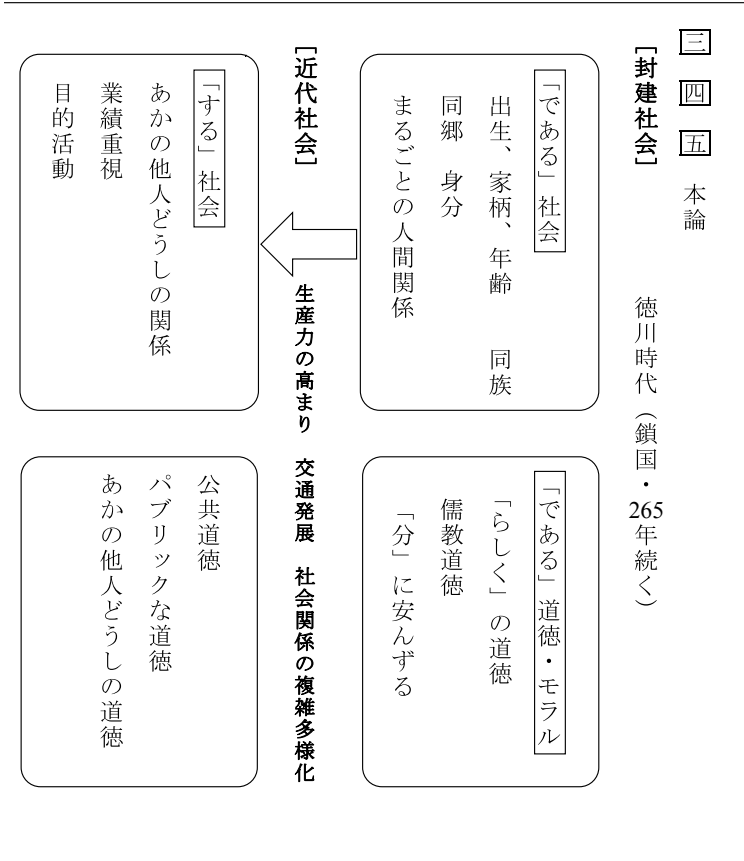
- ・ □ □ を通読後、序論の内容を読み取る。↓ワークシート①
- ・ 本論の主題を把握する。





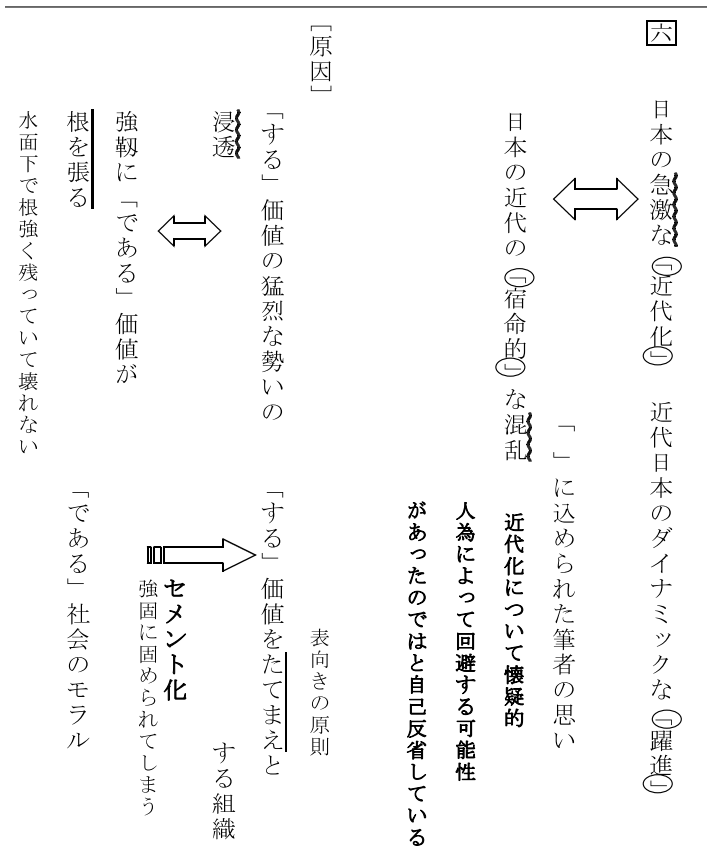
第三時 読むこと

- ・三 四 五 を通読後、封建社会と近代社会の違いと変遷を読み取る。
- ・「さまざまのヴァリエーション」を図式化する。



第四時 読むこと

- ・六 七 を通読後、「する」価値と「である」価値との倒錯を読み取る。



【七】 「する」 価値と 「である」 価値との倒錯

例 「である」 論理  床の間付き客間（上座・下座が決まっている）  日本式宿屋（なじみの客はサービス受ける）  ○ 休日は安息の日、静かな憩いの日  ○ 論文著書の内容で研究者の昇進が決まる  <b>高尚・教養</b>	「する」 論理  台所・居間（「使う」「である」機能性）  ホテル（それぞれの目的で利用、レストラン、プール、会合等）  ↓何かを多忙に「する」日  ↓一定期間のアルバイト（学問上の業績）  <b>大衆的な効果と卑近な「実用」の規準</b>
--	--

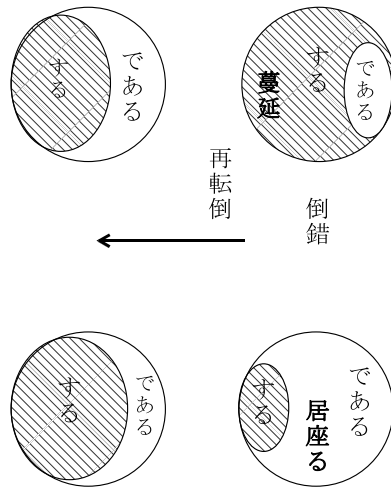
生徒は「宿命的」な混乱「倒錯」「セメント化」「政治化」などに意外なほど興味を示した。このような言葉は、論理的に物事を考えて行く際に役立っていくものである。評論文を学習する上でキーワードとしていくべきである。

第五・六時 読むこと

・【八】【九】を通読後、価値倒錯を再転倒するための筆者の主張を読み取る。

【八】 学問や芸術における価値の意味 「である」  花  それ自体に価値あり  芸術や教養 それ自体  古典	「する」  果実  結果  そのもたらす結果  政治
(外) 休止  (内) 価値の蓄積 精神活動	⇕ 不断地忙しく働く 前へ前へ進む

【九】 価値倒錯を再転倒するために



1950  
～  
1960  
年ごろ

「政治化」の時代

国家介入

人々

社会

外部的、物質的

内面的  
自分の立脚点が確認、  
検証出来ない

主張  
個人

① 深く内に蓄えられたものへの確信

教養・学問・芸術 精神的文化 価値 豊かさ 内面的な精神生活  
(文化)

発言と行動

(政治)  
学者  
文化人

②

内  
ラディカルな精神的貴族主義

内面的に結びつく

外  
ラディカルな民主主義：政治的発言と行動

精神的価値を内に蓄えている生き方

### 第七時 書くこと

・ A「である」価値の否定し難い意味を持つ部に「する」価値が蔓延して  
いるという倒錯の例、B「する」価値によって批判されるべきところに「で  
ある」価値が居座っているという倒錯の例を四人グループで話し合っ  
て挙げさせた後、全体で発表させる。↓ワークシート②

### 第八時 書くこと

・ 教科書の活動「◆身近な問題を取りあげ、「である」論理と「する」論理  
の観点から、八〇〇字程度の文章を書いてみよう。」を個人で書く。

### 第九時 書くこと

・ 評価した文章を返却し、優れた文章を提示して良い点を解説する。

### 三 生徒の書いた文章の分析

(1) 取り上げた身近な問題について

第七時に授業で確認した倒錯の例は

A 「である」価値の否定し難い意味を持つ部に「する」価値が蔓延  
しているという倒錯

・ マスク (感染予防のためにすべきものなのに、することやファッショ  
ンにこだわり、本来の意味を重視していない)

・ ハロウィン (本来大切な収穫のための祭りなのに、仮装する日と化し  
ている)

B 「する」価値によって批判されるべきところに「である」価値が居  
座っているという倒錯

・ 世襲制 (二世の政治家、タレント)

・ 模試 (自分の実力を判断すべきものであるにも関わらず、順位のよし  
あしにこだわっている)

・ タピオカ (本来食して楽しむためのものなのに、映えのための道具に  
なっている)

・ 就職・昇進 (本来は実力で評価されるべきなのに、学歴や家柄で評価  
されることがある)

・ ブランド (本来はその品質によって選ぶべきなのに、ブランド名だけ  
でよいものと判断している)

実際に文章で挙げられた具体例(数字は人数 提出された文章は34)

- A マスク8 マスク警察 ハロウィン6 「生きる」こと 教師の価  
値 マスコットキャラクター プロ野球選手の移籍問題 学問や研究  
トレーニングジム 知識や教養 二〇才成人 客 恋人 俳優、女優
- B 学歴社会6 人種差別や女性差別(「ガラスの天井」問題) 5  
二世タレント・二世政治家など政治の世界3 入閣待機組  
年功序列2 正規社員と非正規社員の位置づけ 模擬試験2 恋愛2  
体育祭における演技パート 歌手のジャンル 国家試験保持者 部活動

授業で挙げた具体例で書いている生徒が四割強いた。そのことが生徒自身が一番問題だと感じている事象であったのかどうかはわからない。社会事象が思いつかずにそのまま使った生徒もいたであろう。何も書けずにいるよりは、すぐ書けることにはつながったと思われるが、社会現象を自分の目で捉え直す部分から考えると不十分だったと思われる。

現実における社会現象としては、「する」社会が進んでいると言われているが、まだまだ女性の政治家は少ないし、大学・高校でも就職率、進学率にこだわる風潮があったり、選挙の投票率は減少する一方であったりと、本来問題として取り上げてほしいものは指摘されていなかった。生徒に身近なコロナ禍におけるマスク、人種差別など話題性のあるものには敏感であったが、社会全体の動きについては日頃から意識していないとわからない部分がある。

(2) 評価の観点について  
評価は、

- ① 具体例の取り上げ方は適切か
- ② 問題点の分析がされているか
- ③ 解決策が明確に書かれているか

の3観点それぞれで、A・A・B・B・Cの6段階評価をし、10・9・8・7・6・5の点数で合計30点満点でつけた。

実際に表記上のことや文章構成なども観点として考えられるが、文章構成は具体例、問題点の分析、解決策の順番で書けばよいので、必要ないと判断した。表記上のことについては、ある程度出来ており、それほど気になる生徒はいなかった。評価の観点には加えなかった。評価するには時間がかかるが、今回はテスト週間中に評価して、まとめの第九時までで一週間あったので時間的余裕があった。評価は、絞った観点であることも大切である。この3観点は簡潔に評価できた上、生徒にもわかりやすかった点でよかったと思われる。評価の結果は、次の通り。

評価	人数
25点	6 (17%)
24点	9 (26%)
23点	10 (29%)
22点	3 (9%)
21点	2 (5.8%)
20点	2 (5.8%)
19点	0 (0%)
18点	1 (3%)
	34

(3) 評価の高かった生徒の文章の傾向  
① 違った視点から社会事象を取り上げているもの

近代日本では、こと社会制度において急激に「する」論理を重視するものへと変化してきた。しかしながら、人々の思想は未だ「である」価値に基づいていることが多い。むしろ「する」社会になったがゆえに「である」社会を恋う気持ちは高まっているようにすら感じられる。

ゲーム「ドラゴンクエスト」シリーズの主人公を例に出して考えてみたい。一九八六年に発売された当シリーズの第一作目では、主人公の少年は国のために戦う責務を与えられた者の一人であった。彼は遂に世界を救い、それゆえに伝説の勇者の称号を与えられたのだ。ドラゴンクエストシリーズにおける勇者の称号はこのように偉業をなすがゆえに与えられるものであったが、次第に勇者であるがゆえに力を持つ者だということに変わってきた。それが顕著なのは二〇一七年に発売された最新作である。主人公はまだ何も成し遂げていない物語の最序盤から勇者として扱われる。勇者として生まれたが故勇者としての振舞いがある意味で強要されているのである。

さて、ここまでのゲーム世界の話が、我々の社会にどう関係するというのかと疑問に思われる方もいるだろう。私は人々の娯楽たるゲームは、その時代の人々の精神的な需要を如実に表すものだと考えている。つまり、例えばドラゴンクエストのようなロールプレイングゲームでは、主人公は発売された時代に生きている人々の理想的な生き方、扱われ方であることが求められるのだ。

このゲームから考えるに、三十年前は「する」制度がもてはやされ、野心のある若者はそういつた世界で生きたいと思っていたのだろう。しかし現在、人々は「する」制度に飽き、「である」社会を懐古している。急激な変化は一時的な熱狂を与えるが、熱が冷めたときの反動はその分大きい。「する」社会化を否定はしないが、もつと着実にすすめていくべきだと私は考える。

接続詞が巧みに使われている。相手意識の高い書き方(点線部分)をしている。現状の分析(二重傍線で囲んだ部分)ができている上、解決策(波線部分)が述べられている。誰も考えていなかったゲームの主人公から、現代の人々

の精神的な需要を読み取るのは面白い視点である。書き言葉特有の言葉遣い（太線部）がされている。「する」制度という本人なりの語を作り、現代社会を新たな視点で分析している。この生徒は、読書感想文でも県審査で入選するなど、文章力は備わっている生徒で、紙の辞書を授業中でもよく引いている。語彙力があるのはそのためであろう。さらによく思考を重ねる生徒である。

### ②原因分析・解決策がうまく構成されているもの

「である」価値と「する」価値が倒錯しているような社会現象を、日本では多く見ることができ。

本来「である」価値の領域に「する」価値が蔓延している例としては、ハロウィンなどの祭りのイベント化が挙げられるだろう。ハロウィンは元来、作物の実りに感謝する気持ちを持つための行事だったが日本ではその意義は忘れられ、お菓子を配り、仮装することに重きを置いた空虚なイベントと化している。クリスマスや、バレンタインデーにおいても同じことが言える。これらの行事は日本固有のものではなく、近代になって外国から取り入れられたものである。祭りが発祥した土地と日本では、価値観や感覚が異なるため、「である」価値の意義を理解することが難しく「する」価値が先行するようになったのではないだろうか。日本に合うか考えず、むやみやたらと外国のものを取り入れた「近代化」も、こう捉えれば考え物である。

さて、近代になってから本格化した政治の世界では、先の例と逆に、「する」価値で評価されるべきところに「である」価値が居座っている現象が見受けられる。国会での答弁や、選挙を思い浮かべてもらうと分かりやすい。明確な答えをかえすことに価値があるはずなのに、論旨をうやむやにする大臣。芸能人や元スポーツ選手など知名度を売りにした選挙。政治家が、自分が政治家「である」ことにあぐらをかいているから、昨今の贈賄事件などの不祥事が多発するのだと思う。政治家は謙虚に「する」価値を高めていくべきであるし、私たちの側も、政治家を「する」価値で常に評価する国民であらねばならない。

「である」価値と、「する」価値の倒錯は物事の本質を見失っているからおきる。その事象が「である」価値を持つのか、「する」価値を持つのか。常に考え続け、「する」価値の機能を「である」価値で確認していくことが大切だ。

問題点の分析がされ（二重傍線部で囲んだところ）、解決策（波線部）が明確に書かれている。文章構成が明確になされ、かつその分量もうまく配分されている。最後の意見は、丸山真男自身がこの教材に対して指導する高校教員に主張していた「私達がごく身近に日常的に見出し、それだけに格別な注意を払わないで看過してしまうような出来事や事柄について、一度立ちどまって「はてな」とその背後に潜んでいる象徴的な意味を問いかけたり、一見何の関係もなさそうな他の出来事とのつながりに思いをめぐらす習慣を養う」というところに、学問的訓練の大きな意義がある。」に合致している。

### ③社会事象の原因の分析がされているもの

現在の日本社会では、「する価値」と「である価値」との倒錯がある。「である価値」の否定し難い部分に「する価値」が蔓延している例では、ハロウィンが上げられる。元来、ハロウィンはスコットランド・アイルランドのケルトの伝統起源を持つ収穫祭で魔除けの意味を持っている。しかし、日本では仮装して合言葉を言いお菓子をもらうという単なるお祭りになっており、東京での仮装は社会現象にもなっている。つまり、収穫祭であるはずのものが仮装するものになっているのだ。

こうなる原因は、ハロウィンの伝来の仕方に問題があったと思う。元々西洋の大切な伝統的祭りだったものが日本に入る時に「仮装してお菓子をもらう」という部分のみが伝わり、仮装することに自己主張をして発散したい若者達が飛びついた。そのため、テレビで映し出される社会現象になるほどの「ただの仮装パレード」となり下がったと考えられる。

次に、「する価値」によって批判されるべきところに「である価値」が居座っている例として、学歴社会が上げられる。本来、就職時の採用はその人個人が持つ意欲や態度、その会社で何をしたいか、どのよう役立つかなどが判断基準であるはずなのに、日本ではまだ学歴社会が根強く残っているため、何をするか、何ができるかが大切であるのに、高学歴であるというだけで優遇されてしまうのだ。

昔は今より高卒の人が多く高学歴であるほど優秀で仕事ができる人が多かったが、今はそのようなことはない。名高い大学に進学しなくても多くの資格を取ることができ、スキルを身につけることもできる。それに高学歴だからといって優秀とも限らない。そのため一概に学歴だけで判断できないのに、風習に囚われている大人が学歴で判断し続けている

るのだと思う。また、そう判断する大人も高学歴の人である場合が多いからだ。  
 このように日本には価値の倒錯が多くあるので、その再転倒をしていかねばならない。

接続詞が的確に使われていて、流れが分かりやすい。また、取り上げられている社会現象にはそれほど斬新さはないが、問題点の分析がある程度されている。どう対策していくのか書かれていないのが残念である。傍線部が文章語として特徴的だと言える部分だが、①の生徒と比べると少なく、表現は素直である。

(4) 書けていない生徒の傾向と考えられる対策  
 800字程度という字数指定で字数不足を100字以上とした場合、34名中14名(41%)いた。以下にその中身を表にしたものを挙げる。

	具体的事象	問題点	原因分析	解決策	不足字数
1	人種差別、女性差別	○	○	×	180字
2	休日 ハロウィン	○	○	×	200字
3	正規社員と非正規社員	△	○	×	250字
4	二世タレント・二世政治家	○	×	×	150字
5	体育祭演技パート	○	○	×	150字
6	移籍	○	○	○	100字
7	年功序列 学問の研究	○	×	×	125字
8	スポーツジム	○	×	×	250字
9	恋愛	○	○	×	175字
10	二世議員 入閣待機組	○	○	○	150字
11	マスク 性差別	○	×	×	150字
12	マスク	○	○	×	150字
13	マスク 性別	○	×	○	150字
14	マスク 学歴社会	○	×	○	175字

(○) 書かれている △ 不十分 × 書かれていない

具体的事象が一つだけに絞られている場合、全ての要素があっても字数不足になっている。(6・10の二人) また、事象が二つあっても、分析がされているだけにとどまっていたり、解決策だけが述べられ、原因分析が書かれていないものもあった。(2・13・14の三人) 問題点のみの指摘で、原因分析がされていない四人の生徒(4・7・8・11)は、教員からの指示を把握していなかったと考えられる。

「具体的な社会現象の問題点↓原因の分析↓解決策」を書くことは黒板に板書していたが、指示通りにすべてが書けている生徒は七名であった。やはり思考の枠組みを作ったワークシートを作り、それに沿って書かせることが必要であった。分析の部分が一番難しいところに時間をかけないといけなかった。実際に書くために三時間しか使っていないが、もう一時間必要であった。

以下のようなワークシートが考えられよう。

ワークシート案

「Issue」「How」「Why」「How」書くための構成メモ

④ 解決策	③ 原因の分析	② 問題点	① 身近な例
			A 「である」価値の否定し難い意味を持つ部面に「する」価値が蔓延しているという倒錯 B 「する」価値によって批判されるべきところに「である」価値が居座っているという倒錯



「論理国語」で挙げられている2 内容 A 書くこと(1)には

ウ 立場の異なる読み手を説得するために、批判的に読まれることを想定して、効果的な文章の構成や論理の展開を工夫すること。

エ 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすること。

とある。今回は、現代の社会現象を二つの論理でどう分析するか、それを確認するのが主眼だったため、「立場の異なる読み手を説得するために」「多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり」「根拠や論拠の吟味を重ねたり」することはしていない。相手意識を明確にした論述をしていくために、自分の考えを見直したり、吟味したりする時間を設定する必要がある。

解決策としては、構成メモの段階で生徒同士がペアで読み合い、質問し合うことを組み入れれば、相互評価が組み入れられる上、完成した文章を読み合う時よりも指摘がしやすいだろう。

#### 四 まとめ

生徒の書いた文章の分析から、文章表現力を高めるために以下の四つを提案する。

1 自分の問題として受け止められるような書くテーマを設定する。

自分の生きる身近な社会の問題を「である」論理と「する」論理で見つめることで、客観的に社会を見つめる視点を養うことが出来る。自分の問題として受け取められれば、ただ教材の内容を学習するだけではなく、社会を生き抜くためのものの見方、考え方となっていくに違いない。

2 構成メモを使って、思考の枠組みを作成した後、生徒同士の相互批評を行う過程を踏んで、文章を書く。

ある程度の分量の文章を書くためには、書く内容の充実が必須である。情報を集めたり、生徒同士の相互批評をしたりすることによって、自身の書く内容の不十分さが自覚できる。

3 「接続詞」の働きを取り上げたレッスンを授業に組み入れる。

評価の高かった生徒の文章では、接続詞が的確に使われていた。接続詞は思考を可視化する働きがある。評論文の読解の際、「接続詞」に着目し

た授業展開を組み入れると、自身の表現力につながっていくはずである。

4 評価の観点を簡略化し、文章を評価してすぐ返却し、かつ文章を多く書く機会を設ける。

対象クラスで、ある程度の分量がある文章を書かせた機会は、以下の四回である。

①一学期末に「ネット上の悪質な投稿による被害をなくすために」という文章を書いた。(600字)

②夏休みの課題として読書感想文を書いた。(200字)

③「である」ことと「する」こと

④冬休みの課題として、岩波新書『豊かさの条件』（暉峻淑子）『反貧困――すべり台社会』からの脱出』（湯浅誠）のどちらかを読み、著者が言っていることをまとめ、それに対する意見を書いた。(A4の横罫線裏表)

①は、「忘れられる権利」（宮下紘）④は「南の貧困／北の貧困」（見田宗介）の学習と合わせて実施した。④はジャパンナレッジSchool内で読める電子書籍の中から使った。書く機会をできるだけ多く組み入れていく中で、評価より自身の表現力の課題が明確になり、意識化することで表現力が上がっていくはずである。

#### 五 今後の課題

大井和彦は、「こころ」（夏目漱石）を使った次のような「文学国語」の授業イメージを提案している。

第1〜4時 「『である』ことと『する』こと」読解（近代の『である』から『する』論理・価値への推移の理解）

第5〜14時 「こころ」読解（『先生』『K』の内面の動きを「『である』ことと『する』こと」で学んだ観点から分析）

第15〜16時 近代と現代との共通性と差異性について、生徒の生活に引きつけて議論する。

## ワークシート①

## 高Ⅱ 現代文「である」「こと」「する」「こと」(丸山真男)

今回は「論理国語」の授業提案であったが、三学期に「こと」を学習する予定である。「である」「こと」「する」「こと」で学んだ観点から分析して読むことを進めていけば、近代、現代という理解もできるだろうし、一番生徒が「こと」で理解できない明治の精神、先生の自殺について違う面から迫ることが出来ると思われる。書くことにおける今回の反省も活かして、さらなる実践を積み上げたい。「こと」は「文学国語」に取り上げられる教材であろうが、このように「論理国語」とリンクするものであろう。

## 注

- 1 内田樹、「国語教育について」、内田樹の研究室、2020年1月6日、[http://blog.tatsuru.com/020/01/06\\_1024.html](http://blog.tatsuru.com/020/01/06_1024.html) (最終閲覧日: 2021年1月3日)
- 2 丸山真男、「筆者から先生方へ」、旺文社編『高等学校国語Ⅱ』教授資料③、1983年
- 3 大井和彦、「『文学国語』の授業イメージ」、大修館編『国語教室』第113号、2020年、31～32。

■ 語句の読み・意味の確認

① 内奥 ( ) 意味 Ⅱ

② 謳歌 ( ) 意味 Ⅱ

③ 対象:

対照:

対称:

④ 相対的: 意味【物事が他との比較において、そうである様。他と関連させ

てみて、初めてその存在が考えられること】

『 的』

1 164ページ上14行 自分が「とらわれている」ことを痛切に意識し、自分の「偏向」性をいつも見つけている者は、なんとかして、より自由に物事を認識し判断したいという努力をすることによって、相対的に自由になりうるチャンスに恵まれていることになります。

2 165ページ上7行 まさに右のような「である」論理・「である」価値から、「する」論理・「する」価値への相対的な重点の移動によって生まれたものです。

■ 重要な語句 筆者の造語・キーワード

④ 「制度の自己目的化」(164ページ下3行)

⑤ 「非近代的」(165ページ下11行)

⑥ 「過近代的」(165ページ下11行)

高II 現代文「できる」「どう」「かぬ」「こと」(丸山眞男)

■ 語句の読み・意味の確認

- ① 内奥(ないおう) 意味⇨内部の奥深いところ。
- ② 謳歌(おうか) 意味⇨声をそろえてほめたたえること。
- ③ 対象⇨他と見比べること。照らし合わせること。  
対照⇨目標となるもの。

対称⇨互に対応してつりあっていること。

- ④ 相対的⇨意味【物事が他との比較において、そうである様。他と関連させてみて、初めてその存在が考えられること】

『絶対的』

- 1 164ページ上14行 **「自分が」とらわれている**「ことを痛切に意識し、自分の「偏向」性をいつも見つけている者は、なんとかして、より自由に物事を認識し判断したいという努力をすることによって、相対的に自由になりうるチャンスに恵まれていることになりました。」

「自分が自由であると信じている人間」「自身のそれ以前の状態」

- 2 165ページ上7行 まさに右のような「である」論理・「である」価値から、「する」論理・「する」価値への相対的な**重点の移動**によって生まれたものです。  
完全に移動していない 不断の動態である

■ 重要な語句 筆者の造語・キーワード

- ⑤ 「制度の自己目的化」(164ページ下3行)  
本来、ある目的を実現するための手段であった制度がそれ自体の存続や発展を目的とすること。制度自体が絶対化すること。
- ④ 「非近代的」(165ページ下11行)  
本来「する」論理・価値であるべき部分が「である」論理・価値が大きくな位置を占めていること。
- ⑦ 「過近代的」(165ページ下11行)  
「である」論理・価値が必要な部分まで「する」論理・価値がのさばっていること。

「できる」「どう」「かぬ」「こと」の身近な例を探してみよう

- 1 「である」価値の否定しがたい意味を持つ局面に「する」価値が蔓延しているという倒錯の例

(教科書の例) ①休日：静かな憩いと安息の日であるべきなのに、日曜大工やスキーなど多忙にする日となっている。  
②学問、芸術

- 2 「する」価値によって批判されるべき所に「である」価値が居座っているという倒錯の例

(教科書の例) ①会社の上役の存在価値⇨その人のする仕事や業績で「存在価値」は決まるはずなのに、仕事を離れてもその関係は続く。

# Class Proposals that Incorporate Language Activities in "Japanese Language (Logic) "

- A case of "*To be*" and "*To do*" (by Masao Maruyama) -

Naomi MINE

## Abstract:

New Course of Study for High Schools (2019) clearly states that "Japanese Language (Logic) " should assign about 30% to 40% of total teaching hours to "writing". What kind of "reading" and "writing" instruction process will be followed by using "*To be*" and "*To do*" (by Masao Maruyama) to efficiently improve "writing" ability? As a result of having them write an essay that analyze modern society with the logic of "To be" and "To do": the following four proposals were made:

- ① Select a writing theme which is closely related to yourself.
- ② After creating a framework using the composition memo, students discuss and criticize the text "To be" and "To do" in pairs and then write an essay.
- ③ Incorporate lessons that deal with the function of "conjunctions".
- ④ Simplify the viewpoint of evaluation, evaluate sentences and return them immediately, and provide an opportunity to write many essays.